

高砂香料グループ ウォータースチュワードシップ・ガイドライン

✓水に関する当社グループの考え方

高砂香料グループが事業を推進・継続するにあたり、十分な量の良質な淡水がすべての事業所およびバリューチェーンにおいて利用可能であることは、非常に重要であると考えています。また、事業所からの排水が水環境に大きな影響を与える可能性があることから、排水管理も非常に重要であると考えています。

水環境は様々な環境問題と関連しており、例えば気候変動や森林問題、生物多様性とも大きな関係性を有しています。水セキュリティだけでなく、あらゆる環境問題に対応することで、多面的に水環境の改善を進めています。当社グループは、グローバル・コンパクトの CEO Mandate や WWF のスチュワードシップガイドラインを参照し、「ウォータースチュワードシップ・ガイドライン」をここに策定致しました。SDGs において目標 6「すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する」がターゲットとして掲げられており、SDGs 達成のためにも更に水管理を強化し、水関連技術の研究活動を進めることで地球環境へ貢献して参ります。

✓指標と目標

当社グループは、直接操業における取水量や排水量といった水に関する指標を適切に測定致します。尚、水関連データは、サステナビリティレポートやホームページで情報開示します。

水関連データを元に、当社グループは定量的な目標を掲げ、水管理を強化して参ります。特に取水量については、2030 年に向けて 2020 年比で総量 10%の削減を目標として、生産効率化を図っています。尚、当目標は当社グループの中長期サステナビリティ計画である“Sustainability2030”でモニタリングしています。Sustainability2030 では、水に関する会社として取り組むべき検討事項も定性的目標として掲げており、水環境の改善に向け努めます。具体的には、水をリサイクルまたは再利用する技術や慣行の採用や、冷却水循環システム・設備の導入等を促進することで、水取水量の削減に努めます。

✓コンプライアンス遵守

当社グループは、事業活動を行うにあたりコンプライアンスを遵守致します。水セキュリティにおいても同様であり、事業に伴う取水及び排水においては法令に従って実施することを誓います。更に、規制以上に厳しい自主基準を設けることで、環境保護活動を推進致します。具体的には、取水ならびに廃水の水質調査ならびに廃水管理、地下水管理を徹底することでコンプライアンスを遵守します。

✓公平な水の利用(上下水道に関する人権)

水は、基本的な生活水準において必要不可欠な存在です。また、基本的な生活水準の維持は世界人権宣言にも謳われており、水は人権においても非常に重要な要素の 1 つとなります。

高砂香料グループは、2018 年に改定した企業憲章・行動規範に加え、労働における基本的原則および権利に関する ILO 宣言、グローバル・コンパクト等をもとに策定した高砂香料グループ人権ポリシーにおいて「人権の尊重」を 1 つの企業方針と定めており、安全な上下水道・衛生(WASH)サービスへのアクセスは基本的な人権の 1 つであると認識しています。全従業員への適切な労働環境として、全拠点において WASH サービスを提供しています。また、地域住民の人権という観点から、事業所が位置する地域において水源及び水環境を独占することなく、地域社会と共に水環境を管理・維持し、WASH サービスを共有致します。

✓ステークホルダーとの協働

水環境問題は当社グループだけで解決できません。関連するステークホルダーと協働して水環境を改善して参ります。また、必要に応じてステークホルダーに対して啓発と教育を行います。

✓水リスク

水関連リスクは、気候変動の進行もあり世界的に関心が高まっています。水関連リスクは、一般的には、物理的リスク、規制リスク、評判リスク等に分類されます。(付記参照)

高砂香料グループは、直接操業拠点だけでなく、バリューチェーン上流：サプライチェーン並びにバリューチェーン下流：製品使用時もリスク評価範囲としています。特に、生産拠点では、私たちの製品製造工程は水に依存かつ影響を与えるリスクを有しているため、将来の利用可能な水量の評価、将来の水質関連リスクの評価、地元の利害関係者に対する影響の評価、将来の規制変更の可能性の評価を実施いたします。評価の結果を受け、事業が依存している水関連リスク及び事業に影響を及ぼすと考えられる水関連リスクについて状況を把握し、適切に管理・対処致して参ります。具体的には、各拠点での BCP 策定や、設備面では雨水貯留システムの導入などの施策を行うことで、水災害が起きた場合でも操業が継続できるような体制を整えています。

付記

水リスク要因と主な影響

リスク要因	主な影響
水不足	水の供給が停止・制限された場合の研究・生産活動の低下
水質悪化	製造用水への影響（水浄化費用の増加等） 洪水・高潮・豪雨：河川氾濫による設備等の浸水
水の効率化、リサイクル等に関する義務化	再生水利用の義務化による設備設置等のコスト増加
排水の水質／排水量の規制強化	下水道代上昇によるコスト増加、排水の水質規制強化による設備設置等のコスト増加
干ばつ	原材料となる農作物被害
水供給の季節変動／経年変動	変動による安定操業への影響
水価格の高騰	水価格上昇による操業コストの増加
地域社会	地下水の汲み上げによる地盤沈下等への対応